

10分で学ぶ古文シリーズ

古典文法速習

《基本事項の確認》

五十音・活用形

係り結びの法則・動詞

形容詞・形容動詞

1. 五十音

★五十音図



↑説明ページ

《ひらがな》

ダ行	ザ行	ワ行	ヤ行	ア行	
だ	ざ	わ	や	あ	ア段
ぢ	じ			い	イ段
づ	ず		ゆ	う	ウ段
で	ぜ			え	エ段
ど	ぞ	を	よ	お	オ段
ダ	ザ	ワ	ヤ	ア	ア段
ヂ	ジ	キ	イ	イ	イ段
ヅ	ズ	ウ	ユ	ウ	ウ段
デ	ゼ	エ	エ	エ	エ段
ド	ゾ	ヲ	ヨ	オ	オ段

《カタカナ》

2. 活用形・係り結びの法則

① 活用形

活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形があり、活用形は、**下につく語によって決まる。**

《意 味》

未だ 然らず

《下につく語》

〔形〕

〔まだ そうなっていない形〕

ず(ざり)・む

用レ連

〔形〕

〔用言に続く形〕

用言・て・けり・たり

終止

〔形〕

〔文を終止する形〕

『。』・と・べし

体レ連

〔形〕

〔体言に続く形〕

体言・に・を

已に

然り

〔形〕

〔すでに そうなっている形〕

ど・ども・ば

命令

〔形〕

〔命令する形〕

『。』(！)

② 係り結びの法則

文はふつう、終止形か、命令形で結ばれる。ただし、以下の係助詞（「ぞ」「なむ」「や」「か」「こそ」）が文中で用いられた場合は**文末を特定の活用形で結ぶ**。

(例) 終止形

1 ものを捨つ。

2 ものを なむ 捨つる。

3 ものを こそ 捨つれ。

→ 連体形

→ 已然形

《意 味》

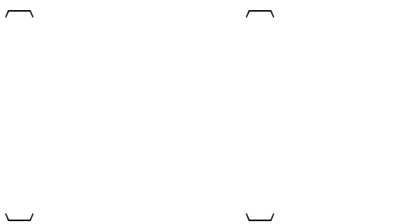
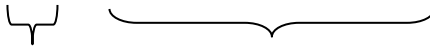
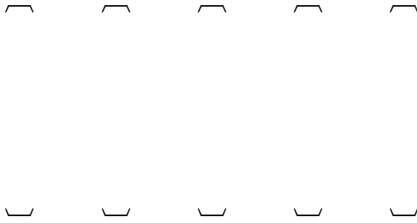
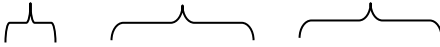
《語 》 (係り)

《文 末》 (結び)

強 意
(現代語訳しない)

疑 問
反 語
(「か、いや／＼ない」)

強 意



3. 動詞



↑その1



↑その2

動詞とは、活用のある自立語（用言の一種）であり、その特徴は、

- ・動作をあらわす
- ・言い切りの形が「ウ段」（ラ行変格活用は「リ」）

① 活用

活用とは、後に続く語によって語形変化することを使う。

花	花	花	花	花	花	（例）
咲	咲	咲	咲	咲	咲	咲
（	（	（	（	（	（	（
け	け	く	く	き	か	か
）	）	）	）	）	）	）
！	ども	時	。	たり	ず	ず
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
（	（	（	（	（	（	（
命令形	已然形	連体形	終止形	連用形	未然形	未然形
）	）	）	）	）	）	）
…命令する時の形	…「ども」に続く形	…時（名詞 体言）に続く形。	…「言い切り」の形	…「たり」に続く形	…「ず」に続く形	…「ず」に続く形

② 活用の種類……活用の種類は全部で「9」種類

行く
〔カ行〕

活用〕

起く
〔カ行〕

活用〕

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
					か	A
				き		I
		く	く			U
け	け					E
						O

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
きよ				き	き	I
	くれ	くる	く			U
						E
						O

行	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命
起	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命

捨	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命
○	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
						I
	つれ	つる	つ			U
てよ				て	て	E
						O

捨つ
〔タ行
活用〕

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
みよ	みれ	みる	みる	み	み	I
						U
						E
						O

見る
〔マ行
活用〕

※「こ」までが「正格活用」以降は「変格活用」

○	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
						I
						U
けよ	けれ	ける	ける	け	け	E
						O

蹴る
〔カ行
活用〕

○	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命
○	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
				き		I
	くれ	くる	く			U
						E
こよ	こ				こ	O

来

〔

活用〕

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
						A
				し		I
	すれ	する	す			U
せよ					せ	E
						O

す

〔

活用〕

死	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命
あ	語幹
	未
	用
	止
	体
	已
	命

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
					な	A
				に		I
	ぬれ	ぬる	ぬ			U
	ね					E
						O

死ぬ
〔

活用〕

命令	已然	連体	終止	連用	未然	
					ら	A
			り	り		I
		る				U
	れ	れ				E
						O

あり
〔

活用〕

③ 活用の種類の見分け方



◎ 下一段活用（一語） 〔 〕

◎ カ行変格活用（一語） 〔 〕 〇〇来 〕（複合語）

◎ サ行変格活用（二語） 〔 〕 〇〇す 〕（複合語）

◎ ナ行変格活用（二語） 〔 〕（去ぬ）

◎ ラ行変格活用（四語） 〔 〕（み）（すがり）

◎ 上一段活用（十数語）

カ行	〔 〕	煮る
ナ行	〔 〕	試みる
マ行	〔 〕	惟みる
ハ行	〔 〕	顧みる
ヤ行	〔 〕	鑑みる
ワ行	〔 〕	はなひる
	〔 〕	率ゐる
	〔 〕	用ゐる
	〔 〕	鑄る

◎その他の動詞

動詞 + 「ず」

- 「**a**」ず 四段活用 (例) 行か^ず
- 「**i**」ず 上二段活用 (例) 起き^ず
- 「**e**」ず 下二段活用 (例) 捨て^ず

※その語の現代語を考える。それが (――iる) なら上二段活用。(――eる) なら下二段活用になる。他は四段活用。

例 起^く↓起^{きる} ∴ (古文では) 上二段活用
 捨^つ↓捨^{てる} ∴ (古文では) 下二段活用

◎動詞の応用

★試験に出る！ 難易度の高い動詞 (暗記しよう！)

◎ 「――」 「――」 「――」 ↓ それぞれ 「**四段**」 活用

◎ 「――」 (恨^{うら}む・怨^{うら}む) ↓ マ行 「**上二段**」 活用

◎ 「――」 「――」 「――」 ↓ 「――」 行上二段活用

◎ 「――」 「――」 「――」 ↓ 「――」 行下二段活用

◎ 「心得こころう」 ↓ 「行下二段活用

◎ 「それぞれが「下二段」活用

【練習問題】

「問」傍線部イ〜ヲの動詞の活用の行、活用の種類、

活用形は何か。

- ・イ 勤むるさま
- ・ハ 見る折々
- ・ホ 忍ぶるも苦し。
- ・ニ おきてはべる。
- ・ト お与えください、その数珠しばし。……。」とトかるとて大夫殿のチのみさせ給へるを、『枕草子』
- ・リ ことにリふれて、粟田殿にはヌせさせ給ひて、夜の御殿（＝天皇の寝室）にルいらせ給ひてヲ泣きまどひけむこそ、『大鏡』
- ・ロ そねみ（＝嫉妬）をロおひ、
- ・ニ 源氏物語』
- ・ト 終止形
- ・チ 連用形
- ・リ 未然形
- ・ル 連用形

《解答》

- (イ) マ行下二段活用・連体形 (ロ) ハ行四段活用・連用形
- (ハ) マ行上一段活用・連体形 (ニ) カ行上二段活用・連用形
- (ホ) バ行上二段活用・連体形 (ヘ) マ行下二段活用・已然形
- (ト) ラ行四段活用・終止形 (チ) ワ行上一段活用・連用形
- (リ) ラ行下二段活用・連用形 (ヌ) サ行変格活用・未然形
- (ル) ラ行四段活用・未然形 (ヲ) ハ行四段活用・連用形

4. 形容詞・形容動詞



★形容詞とは、活用のある自立語(用言の一種)であり、その特徴は、

- ・対象の性質や状態、対象への感情を表す
- ・言い切りの形が「し」「じ」

i 遠し「ク活用」

遠		語幹
から	く	未然形
かり	く	連用形
○	し	終止形
かる	き	連体形
○	けれ	已然形
かれ	○	命令形

ii うれし「シク活用」

うれ		語幹
しから	(しく)	未然形
しかり	しく	連用形
○	し	終止形
しかる	しき	連体形
○	しけれ	已然形
しかれ	○	命令形

◎「ク活用」と「シク活用」の見分け方

① 終止形するとき

下に「なる」をつけてみて・・・

く	くなる	↓ク活用
しく	しくなる	↓シク活用

- ・面白くなる ↓ク活用
- ・美しくなる ↓シク活用

② 終止形以外するとき

活用語尾に「し」があるか？	○ ↓シク活用
	× ↓ク活用

★形容動詞とは、活用のある自立語（用言の一種）であり、その特徴は

- ・対象の性質や状態、対象への感情を表す
- ・言い切りの形が「なり」「たり」

i 静かなり 「ナリ」 活用」

語幹	静か
未然形	なら
連用形	に なり
終止形	なり
連体形	なる
已然形	なれ
命令形	なれ

ii 堂々たり 「タリ」 活用」

語幹	堂々
未然形	たら
連用形	と たり
終止形	たり
連体形	たる
已然形	たれ
命令形	たれ

◎「形容動詞」（ナリ活用）と

「体言＋助動詞」の見分け方

※語幹の上に「とても」を加えて・・・

意味が通じる ↓形容動詞
通じない ↓体言＋助動詞

・（とても）静かなり ○

↓形容動詞・ナリ活用

・（とても）文なり ×

↓体言＋断定の助動詞